

式辞（抄）

梅の花も咲き始め、春はすぐそこまでやってきています。

本日ここに、ご来賓の皆様、保護者の方々多数ご臨席をいただき、群馬県立前橋南高等学校第40回「卒業証書授与式」を挙行できますことを、心より御礼申し上げます。

只今、238名の卒業生に卒業証書を授与いたしました。卒業生に卒業証書を渡せることは、校長としてこの上ない喜びであります。

保護者の皆様。ご子息ご息女のご卒業おめでとうございませう。入学以来、本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。教職員を代表し感謝申し上げます。

さて、卒業生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんが本日卒業を迎えられたのは、何をおいてもみなさん自身の努力があったからです。日々の学習に取り組むだけでなく、学校行事や生徒会行事、部活動など、様々な体験を重ね、卒業に必要な条件を満たすことは決して簡単なことではないのです。さらにそれぞれの進路実現に向かって挑戦し、新たな世界に一步踏み出そうとすることも勇気のいることだったと思います。みなさんの努力とチャレンジに対し、私は一人の大人として敬意を表します。

卒業を迎えたみなさんに最後のお話をいたします。テーマは、「たくましく生きる」ということです。

前南の校歌、その三番に「たくましく歩み進まん」という歌詞があります。

青雲の夢をし掲げ

たくましく歩み進まん

私は校歌のこの部分が大好きです。若者らしい夢をいただき、たくましく生きてゆく。

卒業生のみなさん。みなさんはこの三年間でいろいろなことを学びました。人間としても大きく成長しました。その成長の中に「たくましき」や「強さ」も含まれているはずですよ。自分を振りかえってみてください。三年前、この学校に入学したときと今の自分を比べて、たくましくなった部分、強くなった部分がたくさんあると思います。体力でもいい。知識でもいい。部活動や生徒会活動のことでもいい。友だちとのつきあい方でもいい。たくさんあると思います。その「強さ」はどのようにして身につきましたか？おそらく簡単に手に入ったり、身についたりしたのではないはずですよ。我慢したり、困ったり、時には自信をなくしたりしながら、時間をかけて少しずつ身につけたのではないでしようか。

先日まで韓国ピョンチャンで行われた冬季オリンピック。全国に多く

の感動やドラマを届けてくれました。しかし、感動の場面の裏には、一人一人の選手が経験した、それこそ言葉にならないくらいの苦労や困難、辛いことなどがあるのだと思います。その苦労や困難を乗り越えようとしたからこそ、私たちに「感動」として伝わってくるのです。

私たちが日々生活している世の中は、今後ますます複雑で不安定なものになっていくと思われまます。生活のパターンや世の中の仕組みは急速に変わっていくでしょう。国の内外を問わず解決しなければならない課題も山積しています。そのような世の中、社会で力強く生きていくためには、ただ「いい人」であるだけではいけません。「強さ」や「たくましさ」を身につけていく必要があるのです。

みなさんは、前南で培った学力や人間性をいかし、自ら選んだ進路で専門的な知識や技術を身につけてください。一つ一つの知識や技術が、生きていくための「力」であり、その積み重ねが「強さ」「たくましさ」になっていくのです。

ただ、人生にはいろいろなことが起こります。いいことばかりではありません。辛いことや悲しいこともあるはずでです。どうしていいかわからず途方に暮れてしまうことだってあるのです。しかし、そのようなときこそ、みなさんが本当の「強さ」や「たくましさ」を身につけるチャンスなのかもしれません。難しい局面に対し、もがきながらでもいいから自分なりの答えを見つけ、生き方を決めていく。どうにもならないような困難を乗り越えたとき、人は本当の「強さ」「たくましさ」を身につけることができるのではないのでしょうか。そして、それは、周囲の人に対する優しさと世の中に対する使命感を合わせ持った「強さ」「たくましさ」なのではないかと私は思うのです。

最後に、もう一度校歌の歌詞に話を戻します。

青雲の夢をし掲げ
たくましく歩み進まん

その後は

明日の世に
高く高くはばたく

と続きます。

卒業生のみなさん。みなさんが「明日の世」、つまり未来の日本を、さらには世界を舞台に活躍し、自らの夢の実現を目指して力強く生きていくことを祈念し、卒業式の式辞、贈る言葉といたします。

平成30年3月1日

群馬県立前橋南高等学校 校長 狩野清美